境界を越えた「モノのもつ意味」の変化について：オリエンタリズム的思考に対する気づき

田原裕基

2021/04/18

Abstract

本稿は、京都大学総合人間学部の文化環境学系入門講義の一環として 04/12 に行われた「オセアニアにおける環境と人間」で課された課題『授業でとりあげた事例を参考にしながら、境界を越えた「モノのもつ意味」の変化について考察しなさい。字数は、400～600 字程度。参考文献がある場合には、必ず明記すること。締切は、2021 年 4 月 19 日午前 8 時とする。』に対する提出レポートである。時間がめちゃくちゃばい。本来であれば明確に主張すべき命題を提示するべきであるのだろうが、自らの知見不足のせいでまったくと言ってまともな成果と呼べるような産物は出なかったもので、徒然草方式で書くことにした。

意味とは記号であり価値であり認識であり現象である。これが高 3 の一年間、国語の授業で徹底的に叩き込まれた考え方である。(これについて参考文献を探したがドンピシャなものは見つからなかった。一応通して読んだものとして [2]-[5] を挙げる。) 物事に与えられる i.e. 個々人が与える意味とは、個々人が物事に見出す価値であり、個々人が実存を認識する方法であり、その際のファクターとなる記号(=言語?)であり、その結果として個々人に現れる現象のことであり、そしてこれらは社会構造やその他のコンテキストによって規定されるというのが授業全体を通じてのテーマであった。その先生曰くどうもこれを Saussure の構造主義というらしい。(これについても、調べたところ極めて広く知られた考え方のようで [6] のようにものすごく興味をそえられるものもあるが、しっかりと読めているものは今のところなく参考文献として書けるようなものがないため自分の勉強不足に困っているところである。) 例えば講義にもあった通り、日本の自転車部品はキリバスでは漁に使われ、日本の洗面台はキリバスにおいて共食用の食事に化ける。また同じオセアニアの同じネシア間にあっても、低い島において重要とされてきたパンノキは高い島においてはさほど重要視されない。これらは、同じものが空間的な境界をまたぐことで違う意味を持つ例となる。ほかに、例えばパンノキなどキリバスで伝統的に重要視されてきた食物に着目すると、旧来はサバイバルのためであったものが現在では儀礼的な意味を持つようになったという時間的境界の例やそれによって儀礼の場と日常生活において扱われ方が異なるという文化的境界の例などが挙げられており、加えて、変化する物事は上記のような物理的なものに限らず、例えば遠洋漁業従事者の社会的地位など観念的なも様々な境界によって変化する。このように、様々な文脈によって物事に与えられる意味の様々な変化がみられる。これはキリバスにおいては‘つなぐ海’の作用で

あると講義ではとらえられており、一般には生物の冠進化と同様、(時間的なものも含め) 異文化同士の接触が起こるとその境界領域において社会構造及びそれが規定する意味付けの多様化が進むためではないかと考察でき、構造主義的な視点で捉えることができる。

References

- [1] 江端文雄. 京大の国語 27ヵ年, 第 10 版. 2019, 数学社.
- [2] 梶原秀夫. 記号論—意味に焦点を当てて. 文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要, 2009, 8: 75-95.
- [3] 市川孝一. 商品の記号的価値について: 「消費の記号化現象」再考. 生活科学研究, 1995, 17: 37-46.
- [4] Hiroki Tahara. The Mathematical Expressions of Quranic Exegeses and the Mathematical Definition of the Quranic Correctness. *Journal of Islam and Science*, 2019, 7(1): 17-20.
- [5] Hiroki Tahara. Why the Persians Accepted Twelverism –*Research Focusing on the Description in the History of the Prophets and Kings*–. *Journal of Humanities and Social Science*, 2020, 25(7.6): 39-40.
- [6] 落合仁司. 構造主義の数理. 2020, ミネルヴァ書房.
- [7] Georges Mounin, 福井芳男, 伊藤晃, 丸山圭三郎. ソシユール 構造主義の原点. 1970, 大修館書店.
- [8] 丸山茂徳, 黒川顕. カンブリア紀の生命大進化, 全地球史アトラス, 8.
- [9] 田村光平. 文化進化の数理. 2020, 森北出版.